



# 深イ～話！

No.60

—宮崎中央新聞「ゆめさぼ～と代表 筒井正浩（通称アニキ）講演会」より—

小学生のマサシは「自分のことで泣かれるのが嫌や」と言いました。「だから、僕も泣かないと決めてる」と。手術、抗ガン剤、放射線治療。めっちゃ苦しいはずなのに、マサシは治療で泣いたことがありませんでした。

でも、そんなマサシが唯一泣くときがあったんです。治療のため、マサシは入退院を繰り返していました。次の治療のための入院が決まると、マサシは第2人に謝るんです。

母子家庭で、身寄りのないこの親子は、マサシが入院すると、お母さんも付き添いをしなければなりません。そのため、5歳と3歳の弟たちを児童養護施設に預けないといけないのです。

「寂しい思いさせてごめんね」って、6歳のマサシが弟たちに泣いて謝るんです。

でも、5歳の弟は笑顔で「ううん、お兄ちゃん、注射頑張ってるね」って、3歳の弟は「お母さん、お泊りしてきていいからね」って答えます。

お母さんは児童養護施設に2人を送っていきます。2人を車から降ろし、今度はマサシと病院へ向かいます。その車が見えなくなると、5歳と3歳の弟は抱き合ってワンワン泣くんです。弟たちは家族の前で感情を出すことを我慢していたんです。マサシとお母さんを悲しませると知っていたから。それを施設の方に聞いたとき、僕は涙が溢れました。

2010年11月に自宅へお見舞いに行ったとき、マサシは自分でオシッコができなくて、尿管に管を通して状態でした。マサシは会うなり、「アニキ、お腹が気持ち悪い」と言いました。見たら、オシッコが溜まるはずの袋に全然溜まってない。詰まったんやとすぐに分かりました。

「みっちゃん（お母さん）、これ詰まってるで！病院行ってきれいにしてもらおう」

すぐ僕の手で病院に連れて行きました。

病室に先生が入ってきて、「マサシくん、お腹気持ち悪かったな。すぐきれいなものに替えるね」と言いました。管を抜くときマサシはすごく痛がった。普段、痛がる場所を見せないマサシが痛がりました。

先生が「マサシくんごめんな。本当は細い管を入れたいねんけど、細い管を入れたらまた詰まるから太い管を入れさせてな。ちょっと痛いけど頑張ってるな」と言いました。

マサシは骨と皮だけの小さな手で僕の手をギュッと握った。先生が管を入れる間、「痛い、痛いよ、アニキ、助けて！」って普段は絶対泣かないマサシが泣くんです。どれだけ痛いやろうって思ったけど、手を握ってあげることしかできませんでした。

そしてやっと管が入ったとき、マサシは肩で息をしていました。

僕は泣きながら、マサシをギュッと抱きしめて、抗ガン剤でつるつるになった頭をなでながら、「マサシ、よう頑張ったな。よう頑張ったな」って言いました。

その時、先生がそっと部屋から出て行こうとしました。すると、僕に抱かれていたマサシが、クルッと先生のほうに振り返って、「先生、ありがとう」って言ったんです。ホンマすごい子やと思いました。

その年の11月28日、朝4時に携帯電話がなりました。画面を見ると、マサシのお母さんからでした。「アニキ、マサシの息がもう止まる。最後に何か言うてあげて！」と叫んでいました。たぶん、携帯電話をマサシの耳元に当ててくれてたんやろうね。僕は全力で「マサシ、愛しているよ！マサシ、愛しているよ！」って叫び続けました。そして、車に飛び乗って病院に向かいました。でも、マサシの最期には間に合いませんでした。僕はマサシと、この親子から大切なことをたくさん教えてもらいました。